

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2017年5月）

目 次

内 政

- ◆在英スロバキア人の本国帰還の展望 2
- ◆政党支持率調査結果 2

外 政

- ◆コルチョク外務・欧州問題副大臣の訪日 2
- ◆英マンチェスターの爆発事件に対するスロバキア政府の反応 . . . 3
- ◆GLOBSEC 2017の開催 3
- ◆ライチャーク外相の第72回国連総会議長選出 4

社 会

- ◆ニトラ大学と北京外国語大学の大学間協定締結 4

経 済

- ◆ミネベアミツミ社新工場起工式 4
- ◆ジガ経済相の「一带一路」国際協力ハイレベルフォーラム出席 . . 5
- ◆フィツォ首相と当地大手外資企業との会合 6
- ◆スロバキア中央銀行月報（5月） 6

別添：主要経済指標

※本報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆在英スロバキア人の本国帰還の展望（2日付プラウダ紙）

スロバキア国立銀行（NBS）広報担当のソルチャーニオヴァー氏は「2017年第1四半期から2019年第4四半期にかけて、スロバキアの労働市場は好調を維持することから、外国で働くスロバキア人が約1万2000人減少すると見込まれる。主にBrexitの影響により、多くのスロバキア人が本国に帰還する一方で、外国に働きに行くスロバキア人の数が少なくなる」と述べている。労働力不足に悩んでいるスロバキアは、英国に居住しているスロバキア人を本国に帰還させる計画を立てている。労働・社会問題・家族省管轄の労働局は、詳細は明らかにしていないものの、当局が運営するネットポータル上でスロバキアにおける雇用募集情報を掲載することを検討している。NBSは、今後2年以内にスロバキアで新たに8万4000人分の雇用が創出されると予測している。

◆政党支持率調査結果（23日）

世論調査機関Polisによる5月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。最大野党SaSの支持率の上昇と、連立与党Most-Hidの支持率の下落が継続している。極右政党LSNSは、引き続き3番目に支持率が高い政党となっている。

政党	Polis	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	28.8%(47)	28.3%
SaS（自由と連帯）	16.0%(26)	12.1%
LSNS（我々のスロバキア）	11.1%(18)	8.0%
OLaNO-Nova（普通の人々・独立した人達 -新たな多数派）	9.3%(15)	11.0%
SNS（スロバキア国民党）	9.3%(15)	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	6.8%(11)	6.6%
KDH（キリスト教民主運動）	6.2%(10)	4.9%
Most-Hid（架け橋）	5.2%(8)	6.5%

外 政

◆コルチョク外務・欧州問題副大臣の訪日（22～24日）

【外務・欧州問題省プレスリリース】

日本を実務訪問したコルチョク外務・欧州問題副大臣は、滝沢外務大臣政務官と会談を行った。両者は、二国間関係を評価すると共に、ビジネス協力の推進、直接投資の支援及びEUと日本の戦略的協力の強化について話し合った。

日本は、英国のEU離脱に関する動向を注意深く見守っている。EUにおける経済活動に関心を持っている日本にとって英国は重要な国であり、日本はスロバキアと同様、EU離脱後の英国とEUの関係ができるだけ有益なものになることを望んでいる。両者は、国際情勢についても意見交換し、外交政策上の重要な課題に対して両国が同じ価値観を共有し、近い立場をとっていることを確認した。

コルチョク副大臣は、佐藤義雄・経団連ヨーロッパ地域委員会委員長とも会談を行った。日本側は、スロバキアの経済成長、財政政策及び日本企業にとって魅力的なビジネス環境を評価した。日本は、スロバキアにおいて既に1万人以上の雇用を創出している。双方は、国際貿易に関する問題に対して同じ見方を持っており、保護主義の台頭に立ち向かう必要があるとの認識を示した。双方は、スロバキアと日本は自由経済に依拠した開放的な経済政策を掲げており、EUと日本の経済分野に関する戦略的協定の早期合意を支援していくことで一致した。

コルチョク副大臣は、竹本直一衆議院議員が会長を務める日スロバキア友好議連と会談を行い、国際貿易及び地域情勢について意見交換した。

◆英マンチェスターの爆発事件に対するスロバキア政府の反応（23日）

【首相府プレスリリース】

フィツォ首相は、マンチェスターの爆発事件に関し、以下の弔電をメイ英首相に送付した。

「子供を含む多数の犠牲者を出したマンチェスターにおける昨日の悲劇的な事件のニュースに接し、深い悲しみを覚えている。スロバキア政府は、罪のない人に対する非人道的なこの卑怯なテロ行為を最大限非難する。メイ首相及び犠牲者の遺族に哀悼の意を表明する。この困難な時期に、スロバキアとスロバキア国民は、英国民と共にある。」

【外務・欧州問題省プレスリリース】

ライチャーク外務・欧州問題相は、20人以上が犠牲となり50人以上の負傷者を出したマンチェスターのテロ攻撃に関し、以下の弔電をジョンソン英外相に送付した。

「ジョンソン外相、犠牲者の家族、全ての英国民に哀悼の意を表明する。スロバキアは、この卑劣なテロ行為を非難すると共に、この困難な時期に英国と強固に共にある。」

◆GLOBSEC 2017の開催（26～28日）

GLOBSECは、外交・安全保障政策に関する国際会議としてブラチスラ

バにおいて毎年開催され、今回が12回目であった。今年は、キスカ・スロバキア大統領、ドゥダ・ポーランド大統領、トゥスク欧州理事会議長、ポーランド、ハンガリー外相、チャヴシュオール・トルコ外相を始め、欧州を中心とする世界各国から多数の政府要人、政治家、専門家、ジャーナリスト等約1300人が参加した。会議では、EUの将来、難民問題、テロ対策、ウクライナ情勢、シリア情勢、ブリュッセルでのNATO首脳会合の成果等が議論の中心となった。

◆ライチャーク外相の第72回国連総会議長選出（31日）

31日、ライチャーク外務・欧州問題相は、第72回国連総会議長に選出され、9月12日より1年間、国連総会議長の職務に就くことが決定した。

ライチャーク外相は、国連総会議長に選出された直後の演説の中で、「このような重要な役職に選出されたことは、名誉であり光栄なことである。スロバキアの大統領、政府及び市民による支持、そして、皆様の信頼に感謝している。国連総会議長として、国連が重視している3つの柱、すなわち平和、人権、持続可能な発展を平等に追究しつつ、特に、国際平和を維持するために紛争の予防と調停に取り組んでいく」と述べた。

社 会

◆ニトラ大学と北京外国語大学の大学間協定締結（6日付プラウダ紙）

ニトラ大学は、スロバキアの大学として初めて、国際的に名声が高い北京外国語大学との大学間協定を締結した。この協定に基づき、両大学は学生の交換留学、教員の相互派遣、学術シンポジウムの開催、学術論文の掲載といった形で幅広い協力を進めていく。北京外国語大学では、67の言語が教育されており、その中にはEUの全ての公用語が含まれている。ニトラ大学哲学部スロバキア語学科から派遣されているマホ講師は、4年前から北京外国語大学でスロバキア語の指導に当たっている。

経 済

◆ミネベアミツミ社新工場起工式（5日）

【首相府プレスリリース】

日本の大企業「ミネベアミツミ」は、機械及び電機機器生産に特化した工場をコシツェに建設する。投資額は少なくとも6000万ユーロ、雇用予定人数は1100人であり、東スロバキアにおける最も大きなビジネス活動の一つとなる。新工場の稼働は来年の第1四半期となる見込みである。ミネベア社のコシツェ工場では、欧州最先端の自動車用モーターだけでなく、特殊な電気モー

ターや電気機器の生産も行われることになる。新工場はコシツェ国際空港付近の工業団地に建設され、工場の面積は最終的に5万平方メートルとなる予定である。新工場では、生産の他に、特殊電気モーター、動力システム、センサーといった自動車部品の研究・開発も行われる。ミネベア社の製品は欧州全域の自動車産業市場で販売されることになる。

フィツォ首相は、ミネベア新工場の起工式に出席し、同社の東スロバキア進出及びコシツェ工科大学との協力を評価すると共に、「製鉄、IT産業だけでなく、スロバキアを代表するもう一つの産業（自動車産業）が東スロバキアに登場することになる。スロバキアのGDPを見れば分かるように、スロバキアはEUで最も工業化が進んでいる国である。ミネベア社が学術・研究分野でも活動を行うことを嬉しく思う。コシツェ工科大学を卒業する学生だけでなく大学自体にとって、ミネベア社の進出は大きなチャンスとなるだろう」と述べた。

スロバキア政府は今回のミネベアミツミ社の新規大型投資に対し、2000万ユーロの投資インセンティブを提供することを検討しており、補助金額だけでなく、雇用創出支援や減税措置についても、近いうちにミネベア社と協議する予定である。

【経済省プレスリリース】

ジガ経済相はミネベアミツミ社コシツェ工場の起工式に出席し、「遂に東スロバキアに大型投資を呼び込むことができた。今回の投資は、研究開発部門や大学との協力も対象となっており、スロバキアは単なる組み立て工場ではないことが示された。ミネベアミツミ社の投資規模は非常に大きく、地方都市への投資という性格を大きく超えるものである。このような大企業がコシツェを欧州へのゲートウェイとして見てくれたことを嬉しく思う」と述べた。

ジガ経済相は、コシツェ市街地から工業団地及びコシツェ空港方面への交通インフラを改善する必要があるとの認識を示し、具体例として片側2車線道路の新設や市電の延伸を挙げた。経済省は、コシツェ市、コシツェ空港及び工業団地に工場を置く企業と共に、インフラ整備のための投資基金の設立について協議中である。

◆ジガ経済相の「一帯一路」国際協力ハイレベルフォーラム出席（14～15日）

ジガ経済相は北京で開催された「一帯一路」国際協力ハイレベルフォーラムに出席し、「スロバキアは長い間このプロジェクトに注目してきた。「一帯一路」はスロバキアにとり歴史的なチャンスである。中国だけでなくロシアのような大国も、新シルクロードに強い関心を示している。プロジェクトの詳細はまだ明らかになっていないが、スロバキアが「一帯一路」に関われるかどうか

ということが重要である」と述べた。スロバキアは、中国による投資の中で特に鉄道及び鉄道物流ターミナルの整備に関心を示している。スロバキアは、スロバキア政府が4月に承認した「スロバキア・中国経済協力発展計画」に基づき、中国側と協議を続けていく予定である。

ジガ経済相は、スロバキアを含む欧州中でビジネスを展開している中国通信機器大手ファーウェイ（Huawei）社の関係者とも会談し、投資、先端技術、スマート・シティ構想への支援について協議した。ファーウェイ社は、スロバキアの各自治体との協力に関心を示している。

◆フィツォ首相と当地大手外資企業との会合（22日）

フィツォ首相は、当地で投資を行っている大手外資企業のうち、自動車メーカー4社を含む14社と会合を行った。同会合には、ジガ経済相、カジミール財務相、シモンチチSARIO（スロバキア投資貿易開発庁）長官及びヴァレントヴィチ労働・社会問題・家族局長も出席した。

フィツォ首相は、スロバキアの労働市場では4～5万人の熟練労働者が不足しており、企業は外国人労働者の受入れを要請していることを認めたとうえで、「我々は、特にデュアルシステム（教育と職業訓練を同時に進めるシステム）や長距離通勤の促進に集中的に取り組んでいる。労働者のための住居確保や新たな雇用形態の導入も重要なテーマである」と述べた。

スロバキア政府は、投資の量よりも質を重視しており、企業が科学・研究部門により多くの投資をすることを期待している。フィツォ首相は「科学・研究分野に1ユーロ投資した場合、現在では1.25ユーロの減税措置を受けることができるが、2018年からは減税額が2ユーロに引き上げられる」と述べた。また、双方は、より多くのスロバキアの中小企業サプライヤーを当地外資企業とのビジネスに関与させる方策についても話し合った。

会合では、汚職対策も取り上げられた。フィツォ首相は「会合に出席した企業は、汚職や不透明な取引に一切関与したことがない」と述べると共に、「スロバキア国内の外資企業が、汚職に関与しないことを宣言する共同声明を発出することを期待する」と強調した。

◆スロバキア中央銀行月報（5月）

1 GDP

欧州統計局の速報値によると、第1四半期のユーロ圏経済は、2016年第4四半期と同様、前期比で0.5%成長した。

スロバキア統計局の速報値によると、第1四半期のスロバキア経済は、2016年第4四半期と同様、前期比で0.8%成長した。前年同期比では3.1%

の成長となり、2016年第4四半期（3.0%）を上回った。月別のデータによると、民間消費と投資に牽引された内需の伸びが、特に経済成長に貢献した。

2 労働市場

スロバキア統計局の速報値によると、第1四半期の雇用率は前年同期比で2.1%、前期比で0.3%上昇したが、いずれも2016年第4四半期の上昇率（前年同期比で2.6%、前期比で0.5%増）を下回る結果となった。月別のデータによると、引き続き鉱工業と商業が雇用率の上昇を後押しした。

4月も失業者数の減少傾向は続いており、季節調整前の失業率は0.3%下がりが7.74%となった。しかし、解雇された人や一定の期間失職している人の登録失業者数は依然として非常に多い。

3月の平均賃金は前年同期比で3.4%上昇し、916.8ユーロとなった。今後も、労働需要の高まりが、賃金上昇率を引き上げる主要因になると見られる。

3 物価

物価上昇は減速傾向が続いている。4月の物価は前年同期比で0.8%の上昇であった（3月は1.0%の上昇）。前月比では、鉱工業製品価格が上昇したことにより、0.1%上昇した。

4月の物価上昇の減速にも関わらず、2017年の物価上昇率は1.0%を超えると予測される。

4 貿易

3月の商品輸出は前年同期比で16.3%、輸入は14.9%それぞれ増加した。貿易黒字は、2億4200万ユーロに達した。

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

